わたしのまちの風物詩

八尾市 YAO SHI

河内音頭のふるさと、八尾

音頭取りの名調子にあわせて踊る盆踊り、河内音頭。本市は「河内音頭のふるさと」と言われています。櫓の上で奏でられる独特のリズムと唄。それを取り巻く人の波と踊りの渦。河内音頭が聞こえてくると、河内っ子の血が騒ぎ出します。

古くから歌い継がれてきた音頭に浪曲のリズムと節が応用され、さらに近年では、踊りも躍動感を増して、老若男女を問わず多くの市民に親しまれるようになりました。

市内では、夏になると数多くの櫓が立ち、賑やかな盆踊りが繰り広げられます。なかでも、見ごたえのある２つをご紹介しましょう。

河内音頭の発祥の地　～常光寺の地蔵盆～

毎年８月23日・24日、河内音頭の発祥の地と伝わる常光寺で地蔵盆が行われます。静かな佇まいの境内に、この日ばかりは全国から約２万人が集まります。ここで踊られる正調河内音頭は、室町時代、常光寺再建の折に足利義満が寄進した材木を、淀川から旧大和川を上って運びながら歌われた木遣り（きやり）音頭がルーツとされます。流し節ともいわれ、ゆったりと語りかけるような音頭と優雅な手踊りは情緒にあふれています。

河内音頭に酔いしれる２日間

～八尾河内音頭まつり～

毎年８月下旬には、市民まつり「八尾河内音頭まつり」が行われ、 13万人を超える人々が河内音頭一色の２日間に酔いしれます。今年は８月26日・27日に開催されます。

26日には、人々が河内音頭を踊りながら、市役所前から近鉄八尾駅高架下までの通り約500メートルを練り歩く「大パレード」が行われます。音頭取りが代わる代わる個性溢れる音頭を披露する中、浴衣や法被など、色とりどりの衣装を身に着けた踊り子たちが、それぞれに工夫を凝らした踊りで登場します。型にとらわれず、変化を楽しむのも河内音頭の魅力のひとつです。

27日にも、音頭取りが競演する「大盆踊り大会」が府立八尾高校グラウンドで行われます。夜も更けて、櫓を囲んで二重、三重もの踊りの輪ができるころ、まつりはいよいよ最高潮に。人々の熱気に包まれながら、八尾の熱い夏はフィナーレを迎えます。

● お問い合わせ先 ●

八尾市総務部広報課

TEL：072−924−3811